

国際政治史〈G04A〉

配当年次	1・2年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	芝崎 祐典
文責(課題設題者)	芝崎 祐典
教科書	指定 佐々木 雄太『国際政治史 世界戦争の時代から 21 世紀へ』 [初版]以降(名古屋大学出版会)

《授業の目的・到達目標》

授業の目的：国際政治について歴史を通じて学ぶ。複雑化する 21 世紀の国際政治の諸現象を自ら分析し、本質をつかむ力を養うため、20 世紀国際政治の組成原理を歴史的視座から習得することを目的とする。

到達目標：20 世紀における国際秩序の全体的崩壊とその構築の企てについて、二回の大戦争（第一次世界大戦、第二次世界大戦）の開戦起源および戦後処理などの歴史的事例を通じて説明できる。第二次大戦後以降の国際関係について、冷戦や脱植民地化、地域戦争に関する諸事を踏まえて全体的に把握できる。20 世紀において国際秩序は、どのように作られ維持されてきたかについて説明できる。

《授業の概要》

19 世紀の古典的国際関係のあり方を引き継いだ国際関係のあり方は、20 世紀初頭以降のグローバル化の中で徐々に変容していく。本授業はその過程を歴史的に概観する。ただしそれぞれの出来事を単に歴史叙述するのではなく、国家行動の諸類型や外交の原理、国際関係の諸概念が形成される過程を意識的に捉えつつ、国際政治全体を史的に把握することを目指す。

20 世紀前半について、鍵となる分析対象の史実は、第一次世界大戦に至る国際関係、戦後の秩序形成、その崩壊過程と帰結としての第二次世界大戦までのヨーロッパおよび米ソの国際関係などがあげられる。20 世紀後半については、第二次世界大戦後の秩序の形成の試み（国連、ヨーロッパ統合など、国際機関）、冷戦の起源とその変容、地域紛争（アジア、中東、アフリカなど）を含めた国際関係の秩序などが主たる分析の対象となる。

《学習指導》

- ・日々の国際政治情勢に接する際、常にその歴史的背景を考える習慣をつけること。現在は、必ず過去の上に成り立っているためである。
- ・レポート作成の学習に際しては、教科書や推薦図書を中心としつつも、そのみにとどまらず教科書などに挙げられている関連図書を積極的に参照して可能な限り数多くの研究書に接すること。
- ・その他、新書なども含めて国際政治関係の文献新刊の出版動向に常に関心を払い、本授業のテーマと直接関連しないものであっても関心を抱いたものについては入手してどんどん読み進めること。このことによって様々な見解や解釈に触れることができ、国際政治を見る目が着実に養われることになる。
- ・世界地図を見ること。特に国際政治の争点となる地域については、ある程度細かな地形を眺めておき、地名を聞いたときに大体の位置がイメージできるようにすること。地形や地理は 21 世紀にあってもなお国際政治の重要な要素である。

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

国際政治史〈G04A〉

◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）

◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

第1 課題

第一次世界大戦の起源（原因）について説明せよ。

第2 課題

第一次世界大戦後、戦勝国によって設定が試みられた国際秩序の特徴とその問題について説明せよ。

第3 課題

冷戦の起源について、米ソの政策に触れながら説明せよ。

第4 課題

「パレスチナ問題」の起源について、歴史的背景を整理しつつ説明せよ。

〈推薦図書〉

小川 浩之・板橋 拓己 他

『国際政治史』（2018 年）

有斐閣

松岡 完

『20 世紀の国際政治』〔第 3 版〕（2014 年）

同文館出版

モーリス・ヴァイス

『戦後国際関係史』（2018 年）

慶應義塾大学出版会

益田 実・小川 浩之

『欧米政治外交史』（2013 年）

ミネルヴァ書房

ロバート・マクマン

『冷戦史』（2018 年）

勁草書房